

飛騨高山

残したい

想いと風



高山市
上宝町

高原山椒生産加工業
NPO法人神通砂防理事長

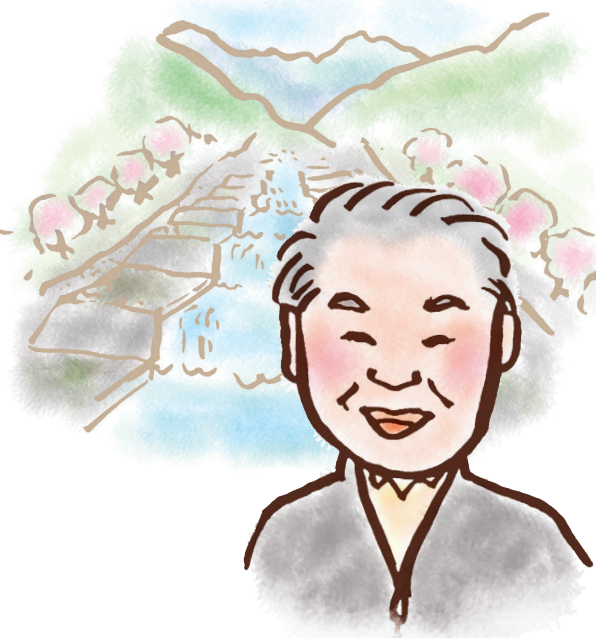
竹腰 藤年さん
たけこし ふじとし

香り高い自慢の山椒と

地域を災害から守る砂防

どちらも奥飛騨の宝物や

守り続けていってほしいな



山椒と砂防に尽力

高山市奥飛騨温泉郷栃尾に生まれ育った竹腰藤年さんは、長年建築業を経験した後、地元の特産品である「高原山椒（たかはらさんしょう）」の生産や加工に携わっています。

平成4年頃が最盛期だった山椒栽培ですが、後継者不足が深刻となっています。

高冷地で育った奥飛騨の山椒はたいへん香りが良く、県外からも需要があるため、生産量をあげるため、さまざまな道を模索しています。

また、故郷である栃尾周辺では昔から川の氾濫が多く、被害者も出た大きな災害を経験したことから、土砂災害から地域を守る「砂防事業」の推進にも尽力してきました。

奥飛騨の山椒

自生した山椒を
先人が改良したものが
「高原山椒」に繋がっています

さまざまな利用

春



花山椒や葉を料理の彩や煮物に。

初夏



未成熟な青い果実を佃煮やちりめん山椒などに。

夏

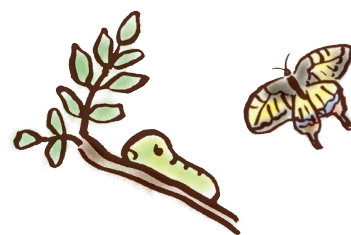


成熟した山椒を乾燥させて黒い種を取り除き、緑色の果皮を粉末にして香辛料に。



需要に応えるために

県外からも需要がある奥飛騨の山椒ですが、後継者が少なく生産量は減少しています。定年後の人材や、副業として栽培してもらうなどして担い手の確保を考えています。



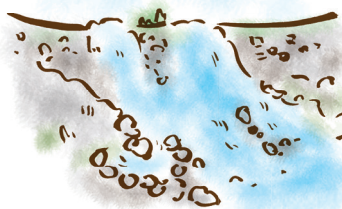
虫や寒さは大敵

病気や獣害には比較的強い山椒ですが、アゲハ蝶の幼虫が葉を食べるため、見まわって駆除します。



気候に左右されやすく、特に遅霜で芽が弱ってしまうため寒さ対策が大切。

さまざまな砂防



しのぶ砂防えん堤

自然の景色に合わせて造られている。魚のための魚道や遊歩道も工夫。



洞谷流路工

階段状の構造で氾濫を防ぐ。

奥飛騨
さぼろ塾
新穂高

道観松
砂防えん堤

焼岳

栃尾

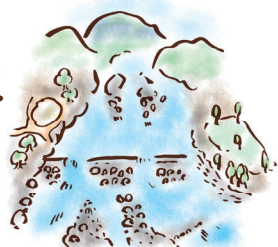
福地

地獄平砂防えん堤

優れた景観デザインで観光でも人気。

たから流路工

自然の石を利用。公園が整備され、憩いの場としての役割も。



痛ましい災害の記憶

奥飛騨温泉郷栃尾では、焼岳の火山活動の影響で地質がもろく、たびたび川が荒れていました。

昭和54年8月には台風による集中豪雨が引き金となり、地区を流れる溪流・洞谷（ほらだに）で発生した大きな土石流が集落に雪崩れ込みました。

3名の命が犠牲となり、多くの家屋や学校が全半壊する甚大な被害となりました。復興までには3年以上もの期間がかかりました。

砂防で町を守れ

災害をくり返さないため、砂防の必要性を感じた住民で話し合い、当時の上宝村や新潟にある「北陸地方建

設局」へ陳情に行きました。

10年ほど要望を続け、「たから流路工」の建設が決まりました。

これがうまくいくと村も砂防にさらに前向きになり、功労者である当時の村長の名前をつけた「しのぶえん堤」や焼岳の噴火にも備えられる「地獄平砂防えん堤」などの整備に繋がりました。

これらの砂防が出来てからは、1人の犠牲者も出ていません。

平成17年に高山市と合併する際には、奥飛騨の砂防が衰退してしまわないよう「NPO法人 神通砂防」が設立されました。

豪雨災害だけでなく、火山の噴火や雪崩などさまざまな可能性に備えて、砂防の重要性を広く伝える活動をしています。

いま、伝えたいこと



（文・絵）
大森貴絵
高山市

山椒も砂防も、奥飛騨を支えてくれるもの。次の世代にも引き継いで大切にしていってほしい。

地域の安全を守ることが砂防の一番大切な役割やけど、奥飛騨は観光地やでな。砂防の周りは景観を整えて、春は桜、夏は蛍を見られるようにしたり、冬は近くの滝や砂防トンネルをライトアップするなど、楽しんでもらえるような工夫もしてるんやさ。